（参考）

板橋区の主な取り組み、住民防災組織の取り組み

１　板橋区地域防災計画の修正

板橋区では、法令や各種計画の修正に合わせるとともに、近年全国各地で甚大な被害をもたらしている風水害に対応するため、令和３年度末に板橋区地域防災計画（風水害編）を修正した。

また、東京都が見直しを進めている首都直下地震の被害想定との整合性を図るため、令和５年度以降に同計画を修正予定である。

２　防災訓練等の実施（令和３年度実績）

（１）総合防災訓練（１８地区）	0 地区	参加人員	0 名	（中止）
（２）（仮称）板橋防災まつり	0 地区	参加人員	0 名	（中止）
（３）住民防災組織訓練	39 回	参加人員	2,532 名	
（４）区民消火隊訓練	16 回	参加人員	92 名	
（５）区民防災大学／防災リーダー養成講習（全６回）	6 回	参加人員	134 名	
／防災個別コース（全５コース）	5 回	参加人員	189 名	
／応急手当普及員講習（１回）	0 回	修了者	0 名	（中止）
（６）中学生普通救命講習	0 校	修了者	0 名	（中止）

３　風水害・土砂災害対策

（１）「水害対応方針」及び「地域班活動マニュアル」に基づく風水害時の体制整備

（２）土のうステーションを区内 66 か所に設置（令和４年４月現在）

（３）ハザードマップを掲載した「いたばしくらしガイド 2021」を配布

４　避難所の整備

（１）全区立小中学校等 77 か所に備蓄倉庫の整備

（２）食糧の備蓄（アルファ化米／268,600 食、クラッカー／292,040 食）

（３）その他の備蓄（毛布／91,270 枚、ブルーシート／18,027 枚、仮設トイレ／865 台等）

（４）平成 26 年度から新規整備資器材（主なもの）

①避難所運営用品（カイロ／34,080 枚）

②避難所衛生用品（ウェットティッシュ／17,056 袋、手指消毒剤 692 本）

③医薬品（救急箱／90 箱）

④磁気発電式ＬＥＤライト 320 本

（参考）

5　帰宅困難者一時滞在施設の整備

（１）民間一時滞在施設の拡充

令和２年度、新たに１団体と帰宅困難者受入に関する協定を締結し、１施設増加。区内の一時滞在施設としては、区施設 12 か所、民間施設７か所となった。（令和４年４月現在）

（２）食糧の備蓄（クラッカー／計 22,680 食）

（３）その他の備蓄（サバイバルブランケット／2,400 枚、紙コップ／7,200 個）

6　防災センターや防災行政無線等の設置・運営

（１）同報系防災行政無線

災害情報の迅速な伝達のため、同報系防災行政無線の放送塔を区内 165 か所に設置している。

（２）防災センター

区民を災害から守るため、震度７の地震を想定した免震構造を採用した区役所本庁舎南館の４階に、災害対策本部室などからなる防災センターを設置・運営している。

防災センターでは、防災対策支援システムや気象観測システム、防災カメラシステムなどを活用し、災害発生時の応急対応や区民への情報提供を行う。防災センターは予約制で見学可能。

7　家庭の防災力の向上

（１）いたばし防災メールの配信、アプリの周知

地震情報や気象情報、その他緊急のお知らせを携帯電話やスマートフォンにメールで配信している。令和３年４月からは配信項目を一部リニューアルし、新システムで配信を行っている。また、インターネット非接続状態でも、区の防災マップが閲覧できるよう板橋区防災マップアプリや、警報や避難情報等を通知でお知らせする Yahoo！防災速報アプリ配信を行っている。（下記２次元コードを使用しダウンロード可能。２次元コードのほか、iPhone は App Store で、Android は Play ストアでそれぞれアプリ名を検索してもダウンロード可能）

Yahoo!防災速報アプリ

①２次元コードを読み込み、「Yahoo！防災速報アプリ」をダウンロードしてください。

②アプリ内の「設定」→「地域の設定」で「板橋区を設定します。」

③アプリ内の「設定」→「地域の設定」で「自治体からの緊急情報」を「オン」に設定します。

板橋区防災マップアプリ

Android 用

iPhone 用

（２）防災ガイドブックの配付

板橋区のハザードマップや避難所情報など、様々な防災情報をまとめた防災ガイドブックをいたばしくらしガイドと合冊で作成し、隔年で全世帯に配布している。

（３）防災用品のあっせん

区内在住・在勤の方を対象に、家庭用防災用品を特別価格であっせんしている。

（４）おうちで備えるキャンペーン

日常と防災を組み合わせ、普段から災害に備えた備蓄を推進するキャンペーン。区内ショッピングセンター等の店舗において啓発活動を実施している。

８　地域防災力の向上

（１）街頭消火器の更新

（２）防災協力井戸の指定

（３）避難行動要支援者名簿の管理

９ 住民防災組織の取組み紹介

住民防災組織が実施する防災訓練の一部を紹介する。

（１）複数町会が協働した合同防災訓練

参加団体：志村五桜町会、小豆沢一丁目町会、小豆沢二丁目町会、
小豆沢緑町会、小豆沢北町会、板橋区危機管理部

訓練会場：志村第四小学校体育館

訓練概要：効果的な自主防災活動を行うため、複数町会で避難所開設訓練を実施した。
その他マンホールトイレ組立などを行い、取扱要領と知識の習得を図った。
訓練内容は、避難所開設・運営訓練、避難誘導訓練、炊出し訓練、仮設トイレの組み立て訓練、スタンドパイプ訓練等を実施した。

※当日は５町会のべ約１１０名が各訓練に参加し、災害時の協力体制を強化した。

（２）コロナ対応型訓練（オンライン、リモート開催）

主催団体：マナーズフォート全体管理組合

訓練会場：各家庭（オンライン環境）

訓練概要：各家庭のパソコンやスマートフォンを使用し、東京消防庁が作成したホームページにアクセスすると消火器の使い方や対象年齢別に分けられた地震、住宅火災クイズなど様々なコンテンツを体験することができる。このホームページを管理組合の住民に周知し、各々の家庭で勉強する機会を設けた。訓練終了後にはアンケートを実施し、効果を確認した。（東京消防庁実施アンケート）

※訓練の日時・会場を指定することがなくいつでも実施できる訓練であるため、防災に興味がある住民が参加しやすい訓練を行った。またコロナ禍でも実施できる訓練体制を構築した。

（参考）

（３）コロナ対応型訓練（実会場型、リアル開催）

主催団体：仲宿東町会

訓練会場：町内掲示板、仲宿ふれあい広場

訓練概要：町会内区域にある 11 か所の掲示板に防災に関する問題を１問ずつ掲示（２週間）。回答用紙は町会役員宅や近隣店舗において配付。最低３問以上回答してもらい、訓練当日に回答用紙を提出してもらう。回答用紙の提出と引き換えに景品を配付した。訓練当日には初期消火、応急手当訓練を実施した。

※3 密をさけるため、掲示板を活用したクイズラリー型としており、自分のまちを知るきっかけとともに防災知識の普及啓発に役立てた。景品配付を実際に行う訓練当日とすることで集客要素にも寄与しており、コロナ禍でも実施できる訓練体制を構築した。